

CASBEE® 名古屋

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE_名古屋2010年版

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya2010_V1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋東京海上日動ビルデ	階数	地上15F、地下2F
建設地	愛知県名古屋市中区丸の内二丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,500 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	事務所、飲食店、工場、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2013年6月 予定	評価の実施日	2011年6月1日
敷地面積	4,208 m ²	作成者	
建築面積	2,335 m ²	確認日	2011年7月1日
延床面積	35,773 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
参照値
建築物の取組み
上記+ 以外の
上記+

(kg-CO₂/年・m²)
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	地域の歴史性(基盤割の街割構造)背景をベースに、周辺の都市空間の質的向上に寄与するランドスケープを創出する。低層部には植栽を記した通りや広場を配置し、建物と街が一体となるような計画とする。高層部はガラスを主としたファサードとし、またコーナーを曲面とすることで、周辺環境に対して柔らかな表情を生む計画とする。	その他 0
Q1 室内環境	Low-e複層ガラスによるダブルスキンの採用、自動制御ブラインドの採用、換気スリットの設置などにより空調負荷低減に努め快適な執務環境とする。	Q3 室外環境(敷地内) 地上部には緑豊かな公開空地を整備し、3階レベルにも屋上緑化を行い周辺環境に寄与する計画とする。
LR1 エネルギー	Low-e複層ガラスによるダブルスキンの採用、自動制御ブラインドの採用により空調負荷低減に努めエネルギー使用を抑制する。また換気スリットの設置により中間期には自然通風可能な執務空間とする。	LR3 敷地外環境 常緑樹を道路に面して配置することによる周辺環境への風害抑制、適切な室内外の照明計画による敷地外環境への影響低減を行う。
Q2 サービス性能	機能的でゆとりある空間を計画。耐震性を向上させ更新性に配慮した長寿命な建築とする。	
LR2 資源・マテリアル	雨水利用により水資源の保護を行い、リサイクル材の使用により資源の有効活用を図る。	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される